

与えられた学びから、意志ある学びへ

21世紀は変化と情報の時代、新しい時代には、新しい教育が求められます。それは、黒板に向かい先生の話を書く、知識や情報を与えてもらう受動的な学びから、目の前の現実やインターネットなどまわりのすべてから「知」を見出し、自ら手を伸ばし、成長していく意志ある学びを叶える新しい教育です。自らの目で見て、自ら考え、判断、行動できる力。知識やスキルの獲得に終えず、活用力、応用力（コンピテンシー）の修得…ここにプロジェクト学習とポートフォリオが人を成長させる両輪となりコーチング手法とともに機能します。

意志ある学びを叶える…<3つの手法と7つのキーワード>

意志ある学びを叶えるー未来教育 プロジェクト学習は、学習者が自ら課題を発見し、目標を明確にして、情報を集め課題解決していく手法です。ポートフォリオは目標への軌跡を一元化し可視化できるファイルであり自己評価の機能も果たし、自ら学ぶ力・自己有能感を高め生きる力の教育を実現します。



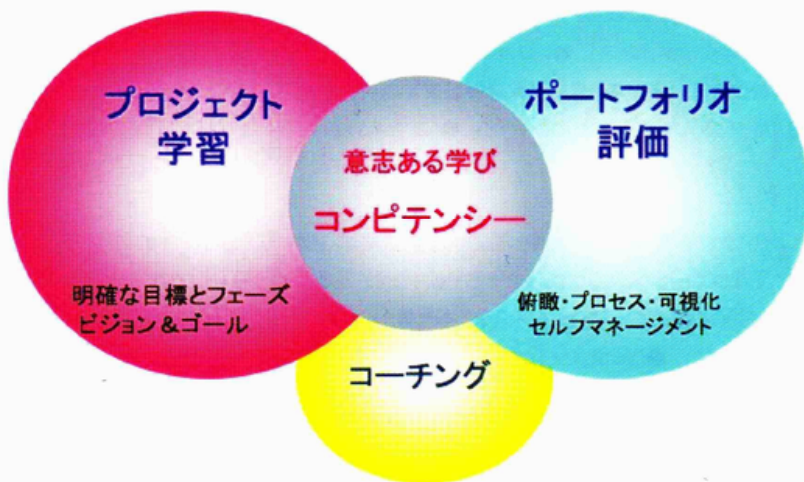
◆ **ビジョンとゴール**

何のために何をやり遂げたいのか、ビジョンとゴールを明確にすること。基本フェーズで一つひとつ向かう、それが意志ある学びを叶えます。

◆ **他者に役立つ**

「知のアウトカム」

「体にいい食生活提案書」「みんなが助かるための地震対策アイデア集」など、他者に役立つ提案型の成果物を生み出すことが未来教育プロジェクト学習の特徴です。貢献性のあるゴールへ向かうことで自信や前向きな使命感が高まり、一層成長への意欲が湧きます。



◆ **俯瞰**

意志ある学びのためには、自分が向かう目標を見据え、その全体を俯瞰することが不可欠です。ポートフォリオで目標への軌跡を俯瞰できます。

◆ **思考プロセスの可視化**

よくするためには、行動や思考を客観的に見る必要があります。そこで、手に入れた情報・思考プロセス・課題解決の手順が可視化できるポートフォリオが応えます。人は成果や自分の成長を目で見ることができると意欲が湧きます。

◆ **部分知から全体知へ**

世の中は教科に分かれているわけではありません。クロスカリキュラム、インテグレートで教科の部分知を全体知としてとらえることで現実に生きる教育となります。

◆ **セルフコーチングとメタ認知**

教師がコーチングスキルを身につけることは必要です。しかし真に目指すべきは、指導法やコーチングが上手な教師ではなく、目の前の学生を「セルフコーチング」できる人に育てることです。高次の自分を持ち、自らを客観的に見ること（メタ認知）ができる人を育てることをゴールとしています。



プロジェクト学習の成果物
(凝縮ポートフォリオ)



思考の可視化

◆ **知の再構築・根拠ある情報**

プロジェクト学習の成果物となる凝縮ポートフォリオは、「私は〇〇を提案します、なぜならば現状に〇〇の課題があるからです、これを解決する具体的な提案は〇〇です、その手順は…」と知的で現実的な行動提案です。しっかり自分の視座を持ち、根拠ある情報をもとにロジカルな思考表現ができる力が身につきます。



新鮮知識

現実と対座

俯瞰

エビデンス

1人思考
思考共有
知識創造



学び続ける心

